

断り表現のストラテジーに関する日中対照研究

—「依頼」に対する断り表現を中心に—

張齡文（岡山大学 東北師範大学）

キーワード：断り表現、ストラテジー、日中比較、フィラー、ポスター発表

1. はじめに

本発表では、日中両言語の断り表現のストラテジーに関する日中対照を行い、比較した調査データをもとに日中両言語それぞれの断り表現のストラテジーから、言語行動の特徴を洗い出し、その特徴が形成される要因を探求することを目的とする。

断り表現に関する日中対照研究は少なくない。筆者の知る限り、断り表現に関する日中対照研究のアプローチは依頼、誘いや提案などの場面に対し、断る側の分析が大部分を占めている（馬場・禹（1994）、藤森（1996）、邱（2000）、加納・梅（2003）、文（2004）蒙（2010）、金（2012）など）。これまでの研究では、日本語母語話者と中国語母語話者の、断り時にそれぞれの特徴が異なることが分かっている。両言語で、断り時にどのようなストラテジーが用いられるかは明らかになってきている。

今回の研究でこれまでの研究に比べ、3つの新規な点を提供できる。

まず、これまでの研究は主に断る側の発話しか分析していない傾向がある。しかし、断り表現は双方向のコミュニケーションである。依頼側がどのように発話するかにより、断る側がどのように表現するかを観察することが双方向のコミュニケーションが欠けてはいけないと考えるため、会話構造による断り表現の分析を行うことにする。つまり、依頼側の発話も一緒に観察する。

また、フィラーを「心的操作」として取り扱い、フィラーの使い方から日中両言語の断り表現の異同を観察する。

最後に、新メディアによる SNS における断りのストラテジーの研究はほとんどないと言える。そのため、本研究では、非対面のコミュニケーションとして、LINE と WECHAT の調査も行うことにする。

2. 研究内容

本調査は、予備調査の場面設定を検討した上で、今回は一人暮らしの友人に三日間ぐらい泊めてもらうように依頼する場面を調査場面として設定した。（予備調査では、友人の実家に一週間泊めてもらうように依頼する場面を調査場面として選択した。）調査協力者に以下のようなロールカードを提示した。（中国語母語話者に対しては中国語で書いた。）

<ロールカード依頼側>

あなたは夏休みに旅行することにしました。ちょうどその旅行先はあなたの友達（Bさん）の家の近くです。あなたはその友達（Bさん）の家に三日間ぐらい泊まりたいと思っています。

以上のような場合に、

対面的コミュニケーション➡あなたはどのようにその友達（Bさん）に頼みますか？

非対面的コミュニケーション➡あなたは LINE でその友達（Bさん）に依頼をする時、どのように頼みますか？

友達 B さんに関する補充説明：

B さんはあなたのクラスメイトで、ほぼ毎日会います。時々学内で一緒にご飯を食べますが、学外であったことや遊んだことなどはありません。

<ロールカード断る側>

あなたの友達（Aさん）は夏休みに旅行することになったそうです。ちょうどその旅行先はあなたの家の近くです。その友達（Aさん）はあなたの家に三日間ぐらい泊まりたいと言っています。

「家」に関する補充説明：

あなたは一人暮らしをしています。

友達（Aさん）とあなたの関係の補充説明：

Aさんはあなたのクラスメイトで、ほぼ毎日会います。時々学内で一緒にご飯を食べますが、学外であったことや遊んだことなどはありません。

実際はその友達を泊めても問題はないですが、あなたは断りたいと思っています。

対面的コミュニケーション➡その友達の依頼を断る時、あなたなら、実際にどう言って断りますか？

非対面的コミュニケーション➡その友達はLINEであなたに頼みました。あなたなら、実際どのように断りますか？

調査対象については、データ収集の際、調査協力者の社会的属性をコントロールするために、調査協力者は大学及び大学院在学者で、各ペアは同じの生物的な性別を持っているというように統一された。対面的コミュニケーションでは、日本語母語話者（男女問わず）は48ペア（96人）である。中国語母語話者（男女問わず）は53ペア（106名）である。非対面的コミュニケーションでは、日本語母語話者（男女問わず）は12ペア（24人）である。中国語母語話者（男女問わず）は44ペア（88人）である。

調査実施時間及び場所については、日本語母語話者の方は、2019年3月～2019年8月の間に、岡山大学津島キャンパスで調査を行った。中国語母語話者の方は2018年2月～2018年3月の間に、東北師範大学の本キャンパスと浄月キャンパスで行った。

調査は2つ行った。1つ目は対面のコミュニケーションに関する調査、2つ目はLINE、WeChatに関するものである。第一の調査の中では、生のデータに近いものが求められるため、ロールプレイによった。第二の調査も同様に、LINEあるいはWeChat（またはQQ）を使い、ロールプレイを行った。

3. 考察

筆者は断りの会話の展開構造を「開始部」「主要部」「終結部」という3つの部分に分ける。データの整理や統計なども主にこの3つの部分を中心に分析する。「開始部」は本題に入る前の呼びかけや挨拶や雑談（依頼の準備）などを行う段階である。主に依頼側の方は会話の主導権を持っている。また、依頼側は依頼の話しを言及すると（「～もらいたい」、「～くれない?」、「～頼みがあるんですが」など）、会話の「主要部」に入る。「主要部」の部分では、断る側の下位ストラテジーを「思考」（言語、非言語）「感情評価」「情報」（要求、確認）「理由」（客観、主観、曖昧）「態度」（拒否、誘導、保留）という5つの大きく分類した。（括弧の中では、それぞれのストラテジーの下位分類である。）

最後に、依頼側は再び依頼せずに、断る側の断りを受け入れることにより、断りの「成功」と言える。その後の会話は「終結部」に入る。「はじめに」の通り、断り表現はリスクが高い表現であり、一定の配慮入れないと、その後の人間関係に悪影響をされるかもしれないため、「終結部」にはお互いの関係のために工夫を尽くす表現が見られる。

分析方法については、調査協力者のペア数が異なっているため、比率で統計する。中国語母語話者からすれば、「ペア数」は 53 ペアの会話の中において、それぞれのストラテジーが使われるペア数の総計のことを指している。使用率はそれぞれのストラテジーが使われるペアが全体（53 ペア）に占める比率を表している。例えば、あるストラテジーが一つのペアの中で 2 回や 3 回など使われるとしても、ペア数を計算する時に、「1」と見なすことである。

4. 結果

その結果、日本語母語話者と中国語母語話者とも断る時に、形成される人間関係を崩さないようにある程度配慮し、工夫を尽くしたが、異なる文化背景を持つ人々に特有の言語表現や言語行動や思考の行き違いにより、その配慮の表し方は異なっていることが分かる。具体的には以下の違いが見られる。

第 1 に、中国語母語話者は「感情評価」というストラテジーが見やすいのに対して、日本語母語話者の方は 48 ペアの中で 8 ペアの話者にしか見れない。

第 2 に、「情報」のストラテジーで、その下位のストラテジー「要求」と「確認」は日本語母語話者の会話の中で連動している傾向がある。つまり、情報を要求する後に、すでに獲得した情報を重複、反問などにより、確認するストラテジーが出てくる。それに対して、中国語母語話者の方は、「要求」は「確認」より、2 倍ぐらい見られる。連動する傾向が見られなかった。

第 3 に、「関係修復」のストラテジーでは、日本語母語話者が「詫び」で関係修復をすることが多いのに対し、中国語母語話者の方は「詫び」は相対的に少ない。それに対し、「約束」や「代案」を多用する。

第 4 に、依頼側は泊りの依頼に対し、断る側は思考の時間がある。（ストラテジー「思考」である）そのため、「思考」という段階は断り行為の構成要素として取り扱うことにする。その「思考」の表現形式は一つは言語で表す。もう一つは言語ではない形式で表す。つまり、沈黙することである。沈黙は断りのストラテジーとして認められるが、言語上の比較はできないため、本研究の研究対象として扱わないことにする。

しかし、言語の方は主に「フィラー」に関与すると考える。日本語のフィラー「ええと」「ソノ（一）」「アノ（一）」と中国語のフィラー「那个（nage）」「然后（ranhou）」「就是（jiushi）」とも「心的操作」として取り扱うことができる。先行研究を踏まえ、筆者は、筆者はフィラーは言語編集過程を言葉にし、依頼側と人間関係を調整し、また、断る側から依頼側へのフェス侵害を和らげ、丁寧さを示す効果ができるという仮想を立てられると思う。

また、断り表現では、日本語母語話者は「ええと」「あの一」「その一」などのフィラーによる自分の言語編集の心的操作を相手の前に示し、相手の気持ちへの配慮や相手への丁寧さを表す。「丁寧表出型」と言えよう。それに対して、中国語母語話者の方は、理由を色々あげること、理由を重ね、詳しく説明することのような「理由説明型」及び話題を転換することのような「回避型」でもある。

第 5 に、非対面のコミュニケーションにおいては、相手と直接対面することがないために、プレッシャーもそれほど高くなる。リスクが高い断り表現にしても、スタンプを使うことやメッセージを無視すること屋や直接「ダメ」「無理」で断ること、さらに普通体の使用などのような多様な表現があらわれることが分かる。

参考文献

- 井上優 (2013) 『相席で黙ってられるか一日中言語行動比較論』 岩波書店
- 荻野網男 (2003) 『朝倉日本語講座9・言語行動』 朝倉書店
- 尾崎喜光 (2006) 「依頼・進めに対する断りにおける配慮の表現」 『言語行動における「配慮」の諸相』
国立国語研究所
- 葛 欣燕・松村瑞子 (2017) 「指示詞フィラーの用法についての日中対照分析：日本語「あのー」と中国語「那个 nage」の機能を中心に」 『言語文化論究』 38 : 41-58 九州大学大学院言語文化研究院
- 加納陸人・梅暁蓮 (2003) 「日中両国語におけるコミュニケーション・ギャップについて考察—断り表現を中心に—」 『言語と文化= Language and Culture』 15 : 19-41 文教大学大学院言語研究科付属言語文化研究所
- 金 可可 (2012) 「断り」行為に関する日中対照研究—「意味公式」とポライトネスの観点から— 『指向』 9 : 164-173 大東文化大学対学院外国語学研究所日本語文化専攻
- 邱 利華 (2000) 「日本語母語話者と中国人日本語学習者の『断り』の対照研究」 『比較社会文化研究』 8 : 57-76
- 河正一・徐明煥 (2018) 「断り表現に関する日韓対照研究の動向」 『さいたま言語研究』 2 : 45-52 埼玉大学大学院人文社会科学研究所日本語専攻内 さいたま言語研究会
- 定延利之 (2005) 『ささやく恋人、りきむレポーター』 岩波書店
- 定延利之・田窪行則 (1995) 「談話における心的操作モニター機構—心的操作標識「ええと」と「あのー」」 『言語研究』 108 : 74-93
- 滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』 研究社
- 張偉雄・黄麗華・邵迎建 (1998) 『活用中国語』 白帝社
- 堤 良一 (2017) 「アノー、ソノー、エーットね……何がしたいの？」 『ココが面白い！日本語学』 ココ出版
- 堤 良一 (2012) 『現代日本語指示詞の総合的研究』 ココ出版
- 中井好男・船橋瑞貴・副田恵理子・向井裕樹 (2018) 「LINEでの日本語母語話者からの誘いを非母語話者はどう断っているか：「再誘い」を誘発する要因とその背景にある意識」 『国立国語研究所論集』 14 : 169-192
- 中井陽子 (2017) 「誘いの会話の構造展開における駆け引きの分析—日本語母語話者同士の断りのロールプレイとフォローアップ・インタビューをもとに」 『東京外国語大学論集』 95 : 105-124
- 中島悦子 (2011) 『自然談話の文法—疑問表現・応答詞・あいづち・無助詞—』 おうふう
- 任炫樹 (2004) 「日韓断り談話におけるポジティブ・ポライトネス・ストラテジー」 『社会言語科学』 6-2 : 7-43 社会言語科学会
- 馬場俊臣・禹永愛 (1994) 「日中両語の断り表現をめぐって」 『北海道教育大学紀要第1部人文科編』 45-1 : 43-54
- 藤森弘子 (1996) 「関係修復の観点からみた「断り」の意味内容—日本語母語話者と中国人日本語学習者の比較」 『大阪大学言語学』 5 : 5-17 大阪大学言語文化学会
- 文鐘蓮 (2004) 「断り表現における中日両言語の対照研究—意味公式の発現頻度を中心に」 『人間文化論集』 7 : 123-133 お茶の水女子大学大学院 『人間文化論集』 編集委員会
- 蒙韞 (2010) 「日中断りにおけるポライトネス・ストラテジーの一考察：日本人会社員と中国人会社員の比較を通して」 『異文化コミュニケーション研究』 22 : 1-28 神田外語大学
- 山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』 くらしお出版